

『地震を想定した総合防災訓練を実施しました』

当社は、3月21日リサイクル燃料備蓄センター内において『総合防災訓練』を行いました。

この訓練は、大規模地震や火災などの災害発生時において、迅速かつ円滑な対応ができることを目的として、平成27年度から定期的にも実施しており、今回で5回目になります。

今回は、緊急時対策本部（以下 対策本部）内での訓練を中心に行ったもので、青森県内で震度5強の地震発生を想定しました。

構内一斉放送で地震発生情報が伝えられた後、総合対策本部長（社長）、対策本部長（副社長）以下、約50名の社員が対策本部に参集し、訓練がスタートしました。

「けが人の発生」、「土捨て場の土砂くずれ」というトラブルを想定し、対策本部では刻々と変化する被害状況に対応するとともに、事態の変化に応じて社外関係箇所へ情報提供（模擬）を実施しました。

対策本部での情報収集・整理を適切に行うことが重要であることから、今回は、情報共有を円滑に行うために対策本部の中央にスクリーンやモニターを設置し、その効果を確認しました。

また、言い間違いや聞き間違いによる情報の混乱を避けるため、より明確な発話をするようにルールを定めました。これまでと違った発話方法でしたので、発話者に若干の戸惑いも見られましたが、よりスムーズに対応できるように訓練の回数を重ねていきます。

当社は、自らの訓練から得た教訓だけでなく、他の事業者から学んだことも活かしながら、「いざ」という時にあっても、迅速、的確、かつ冷静に対応していくことができるように今後も取り組みを進めてまいります。



“対策本部長からの指示”の様子



総合防災訓練の様子